



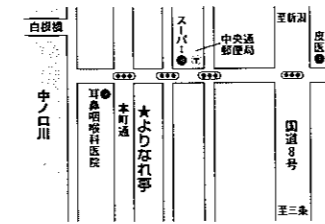
みんなのページ (最終回)

### 住めば都

村山 清一  
(六十七歳・高校前通)

ちょうど四半世紀前、勤め先の企業が白根市に移転しました。これに伴い、それまで住んでいた三条市から住居を移そうと白根市内を探し回り、大通地区と和泉地区に絞り込んで、最後は高校前に落ち着きました。  
四代前の吉沢市長が広い土地をまとめ、その後、滝沢市長がカルチャーセンターやしるね大風と歴史の館、また竹内市長がグラウンドやテニスコート、そして現吉沢市長が夜間照明や多

お金の方がいいのねえ。  
喫茶風のお店では、衣類のリサイクル品やアクセサリーなども扱っています。女性店主の応援団がいっぱいです。目配り、気配りがすごいんです。地元食文化や文化など、新たな発見を教えてくださいたいです。  
「いい人たちが集まったね」。出店者みんなの感想です。今度、また一つお店が増えます。お楽しみに。こちらの癒される、時がゆっくりと流れる、そんな場所が四の町にあり



### 飾りのなつ鷹つさ

山岡 フミ  
(八十九歳・高校前通)

病室は常々、足音立てず物音立てず、静かにしているところばかり思っていたのに、明るく笑い声さえ聞こえます。看護師さんの忙しそうな足音だけが聞こえていたときは全くの逆で、驚いています。  
「さようなら、皆さんも早く良くなってね」。幾度か空いたベッドに、新しい人がそれぞれの痛みを持って、辛い苦しい嫌な顔をして来られました。立ち上がることも動くこともできず、天張りばかり眺め三、四カ月。その間、

### おめえさんも、よりなれてえ(事)

秋庭 保夫  
(四十五歳・大通黄金)

昨年、市の空き店舗活用市街地活性化事業に賛同し、出店者として組合員となりました。そして十一月に四の町にオープンしたコミュニティサロン「よりなれ亭」の中で、わたしは福祉の店を出店し、ボランティアさんの手作り品を販売しています。  
この場所、たくさんの人たちとの出会いがありました。漬物物のお店「のぶちゃんキムチ」。わたしはキムチが大の苦手だったので、このキムチは三種類ともおいしいのです。妻はキムチ大好き人間。食卓にキムチが出ただけでしかめ面のわたし。そのわたしが、妻と一緒に食べられるようになりまし。接客はこの店の看板娘。お客さまへの対応は明るく誠実で、とにかく気持ちがいい。バイタリティがあつて、料理作りが得意のお母さんと二人三脚です。商売の原点をお二人から学びました。  
パッチワークのお店では、プロで張り屋のお母さん二人。教室の生徒さんも増え続けています。もちろん、すぐでかわい商品もたくさん置いてあります。  
リサイクル店の若いお父さん。やさしい喫茶店のマスターのような人です。出店したときよりリサイクル品が増えたような...? 人柄が品物を呼ぶ。

### ふる里白根に寄る賛歌

児玉 美知子  
(五十六歳・魚町)

白根町から白根市へと変わったのは、わたしが小学五年生のときでした。あれから四十五年の月日が流れ、今年、新潟市へと生まれ変わることに、感慨深い気がしています。当時十一歳だったわたしは、五十六歳のオバサンになりました。歳月は人を待たず。アツという間の四十五年でした。  
しかしこの年月にはさまざまな思い出があります。いわゆる第一次ベビーブームのわたしたちの世代が、社会を動かしてきたのは明白な事実です。大風代表される白根市の力強い営みは、次の世代にしっかりと受け継がれています。今般新潟市と合併され、白根市はなくなりませんが、大風に沸き立つ白根魂は永久に不滅です。  
新しい大きな都市となつて、都会的な町になるのでしょうか。何が良くなり、何が不便になるのか、まったく分からないわたしですが、新しい新潟市民となつて、白根の変容を見極めたいと思つていきます。

### 中央文芸 (最終回)

- 俳句
- 寒禽の鋭き声の森深し 小林 光子
  - 年賀状はねば遠くなりし人 笠原 里津
  - 日記帳まだ白きま、松七日 相田 照子
  - 狒犬の凍てついてゐるお元日 古川 綾
  - 去年今年雀ふつくらまつつく 保倉マチ子
  - 雲切れ青空眩し初御空 本間しげ子
  - 雪散らし枝から枝へ初雀 伊勢亀文子
  - 御降りの白き世界に浸りけり 五十嵐理恵
  - 御降りの田に白鳥の群がれる 安澤 飛浪
  - 着ぶくれて歩く姿を正しうし 塚田 紀伊
  - 紅さして華やぐ心初鏡 堀内ナナ子
  - 御降や遠くうすく山二つ 勝山 絢子
  - 拳手の礼揃ふラッパや出初式 五十嵐寛吾
  - 満天の星またたきもなく凍つる 公條 雪夫
  - 偽札に狂ふがごとく冬の川 石黒 陽子
  - 鳥追いや歌声響く雪明り 知野 慶子
  - 待ち針を数えなおして年用意 小林 なお
  - 手作りの菓子の香つれて初出勤 小林きみえ
  - 白鳥や瓢湖あちこちカメラマン 小野信一郎
  - チューリップの早咲き届き初電話 真嶋 純子
  - 大寒のはがね色せし水面かな 小林富沙子
  - うぶすなの杉の秀より冬の月 真嶋つぎえ
  - 着膨れて肩身も狭く吸う煙草 川村まさし

### 短歌

- 見渡せば刈り入れ後に白鳥が落葉あさる 出来島ミサホ
- 小春日の昼 純色の雲閉ざす空よりひとすじの光恩寵のごとく差し来ぬ 関 悦子
- 弱視なる我を励ます親友も今は七十路の人生歩む 河内 公男
- ひとときの秋晴れに出てこおるぎは堆肥山に廻ひろげおり 大塚 イツ
- 紅のうすきは残し人の手に摘みとられゆ 星 ハツノ
- 食用菊は カルチャの青銅像を眺むれば昔の妻がバスト浮ぶる 小出熊四郎
- 雪深き越後の地域フキの花咲く春の吉日新潟 品田 三郎
- 川 柳
- 病んでみて生きる幸せ噛み締める 山岡 フミ
- 君が代にこだわっている式次第 吉川 彰
- おみくじは中吉でよし明日がある 今井 七郎
- すぐ折れるエンピツといふ負けいくさ 織田 セツ
- 夫が焼く鰯のひらきが今日も出る 荏原紗綾子
- 妻相手ひねもす暇む将棋盤 大谷 龍吉
- ピンボケの美女を写したカメラマン 河内 勝哉
- 再会の保証はいらぬクラス会 児玉ひろし
- 寒の入り祖母のチャンチャンコが似合う 田村 恒夫
- 突然の訃報列れの声もなし 田中 弘子
- 県の花異議なく決める雪割草 中村 尚治
- ちくはぐで軋みながらも夫婦 西条 ムラ
- 詰襟と別れた春のほろ苦さ 原 滋喜
- かじかむ手炬燵の脚に恋をす 原 朋子
- 二等分する妻の愛母の愛 今井八重子
- 母の味干し大根と漬し豆 中村 セツ

★感謝★ これまで、皆さんからたくさんすばらしい作品を発表していただきました。長い間、ありがとうございました。